



無心に白球を迫える…健康に感謝

UCL代表 石塚誠一 (宗幹)

数年前、東京新聞が主催した「読者と対話する集会」に出席し、私は冒頭で「日本は権(たが)が緩んだ借金大国に何故なってしまったのか…新聞は読者に伝える役割があるのではないかと提言した。そのあと今の日本は主権在民ではなく主権在官だ…税金が放漫に使われている…将来が心配だ…等、出席者から普段は新聞に載らない赤裸々な意見が続いた。あの時から東京新聞の姿勢が変わったと思う。

一方で、相変わらず締りのないのが中央のスポーツ界。聖火台を忘れてしまった新国立競技場、著作権を恐れスポーツの躍動感が欠けてしまった淋しいシンボルマークとエンブレム。

オリンピックは生命の讃歌、平和の祭典であるはずなのに、コンセプトを忘れた採算無視の負のレガシー(箱物)づくりが優先。豊洲市場と同様、小池都知事の誕生がなければ暴走が続いていたかも。為政者が無知で方向を誤ると納税者が余分な負担を強いられる。

☆

我が連盟はどうだろうか。6チームが小学校の校庭を借りて始まったリーグが球場消滅など幾多の試練を乗り越え、来年で創立55周年迎える。

第一歩が行政などに頼る方向に行っていたら今日まで続かなかっただろう。

誕生して間もない頃はリーグが地域社会に認められるよう国会議員や教育長などの諸氏に顧問や相談役を委嘱したが、常に自主独立を貫いてきた。

「継続は力なり」よく言われる言葉だが、力の源泉は他人任せではなく、役員や選手が進んで参加して組織を動かすエネルギーになっていること。

能力の限界に挑戦するアスリートのスポーツも感動を与えてくれるが、組織に自ら参加して自主性を育て、健康で充実した人生を創れる我々のスポーツは、より価値があるのではないかと。

改めて振り返るとUCLは時代の一步先を行っているのかも知れない。

他国に見栄を張って増え続ける開催費、アスリートの稼ぎ場と化したオリンピックは消えていこう。

UCLのように皆で育てるスポーツが膨大な医療費を減らし、健康な社会づくりに必要な「スポーツの王道」であることが理解される時が必ず来る。

UCLはいま新体制へ脱皮の時、誇りを持って仲間づくりを進めよう。

私も皆さんの若さを貰って傘寿の80歳を迎えました。一選手として闘争心を忘れず、リーグを応援します。

☆第54回リーグ戦

Aクラス優勝 **デンジャース**
 準優勝 **ダンディース** 第3位 **JAPON**
Bクラス優勝 **バッドボーイズ**
 準優勝 **ラードネス** 第3位 **NATURAL**

☆第39回トーナメント UCLカップ

優勝2チーム **フリースタイル・ギャザーズI**
 (決勝引き分け)
敢闘賞 **デンジャース** **レイダース**

横見表(ポイント) ○勝(+3) ●負(0) 引き分け(+1) △不戦勝(+3) ▲不戦敗(-5)

Aクラス	フリースタイル	ポバイズ	ランバース	デンジャース	YOUNG	ダンディース	JAPON	Warriors	サニース	ポローズ	勝	負	引き分け	ポイント	順位
フリースタイル		● 5/9	□ 4/4	● 7/11	○ 10/1	○ 5/1	● 1/3		○ 15/1	○ 8/0	4	3	1	13	4
ポバイズ	○ 9/5		○ 10/9	● 6/7	● 6/7	○ 0/1	● 7/8		○ 14/2	○ 3/0	4	4	0	12	5
ランバース	□ 4/4	● 9/10		● 0/3	● 6/2	● 2/5	□ 1/1		○ 3/1	□ 4/4	2	3	3	9	6
デンジャース	○ 11/7	○ 7/6	○ 3/0		○ 18/0	○ 3/2	○ 12/3		○ 9/5	○ 23/1	8	0	0	24	1
YOUNG	● 1/10	○ 7/6	● 2/6	○ 0/18		● 1/3	□ 1/1		● 2/4	● 3/4	1	6	1	4	8
ダンディース	● 1/5	○ 1/0	○ 5/2	● 2/3	○ 3/1		○ 4/0		△ 7/0	○ 3/2	6	2	0	18	2
JAPON	○ 3/1	○ 8/7	○ 1/1	○ 3/12	○ 1/1	○ 0/4			○ 7/6	○ 9/8	4	2	2	14	3
Warriors				▲ 0/7											
サニース	● 1/15	● 2/14	● 1/3	● 5/9	○ 4/2	▲ 0/7	● 6/7		● 0/16		1	7	0	-2	9
ポローズ	○ 0/8	○ 0/3	□ 4/4	○ 1/23	○ 4/3	○ 2/3	○ 8/9		○ 16/0		2	5	1	7	7

Bクラス	ギャザーズI	ギャザーズII	モーホース	NATURAL	あよろし	レイダース	ラードネス	バッドボーイズ	S O B	APACHE	勝	負	引き分け	ポイント	順位
ギャザーズI		● 0/7	○ 9/0	○ 2/3	○ 7/0	○ 5/1	○ 2/7	○ 0/7	○ 6/5	○ 11/0	5	4	0	10	6
ギャザーズII	○ 7/0		● 2/4	□ 7/7	□ 8/8	○ 10/4	○ 5/12	○ 0/10	○ 5/1	○ 9/2	4	3	2	14	4
モーホース	○ 0/9	○ 4/2		▲ 0/7	○ 10/8	○ 1/12	○ 10/3	○ 0/5	○ 2/6	○ 11/4	4	5	0	7	8
NATURAL	○ 3/2	□ 7/7	△ 7/0		○ 9/1	○ 8/4	○ 5/8	○ 4/5	○ 8/0	○ 0/5	5	3	1	16	3
あよろし	● 0/7	□ 8/8	● 8/10	● 1/9		● 6/8	● 3/7	● 1/4	○ 11/3	● 0/5	1	7	1	4	10
レイダース	● 1/5	○ 4/10	○ 12/1	○ 4/8	○ 8/6		○ 7/16	○ 2/11	○ 7/8	○ 5/4	3	6	0	9	7
ラードネス	○ 7/2	○ 12/5	○ 3/10	○ 8/5	○ 7/3	○ 16/7		○ 0/3	○ 3/2	○ 2/17	6	3	0	18	2
バッドボーイズ	△ 7/0	○ 10/0	○ 5/0	○ 5/4	○ 4/1	○ 11/2	○ 3/0		○ 11/8	○ 6/4	9	0	0	27	1
S O B	● 5/6	● 1/5	○ 6/2	○ 0/8	○ 3/11	○ 8/7	○ 2/3	○ 8/11		○ 0/7	2	7	0	6	9
APACHE	○ 0/11	○ 2/9	○ 4/11	○ 5/0	○ 5/0	○ 4/5	○ 17/2	○ 4/6	○ 7/0		4	5	0	12	5

◇リーグ優勝監督コメント

Aクラス デンジャース 片桐 裕

昨年は初の不戦敗で、対戦相手・連盟の皆さまにご迷惑をお掛けしました。今年の優勝は、昨年の出来事をメンバー全員が反省し、驕ることなく謙虚に取り組めた結果だと思います。

チーム創生期のメンバーも45歳を過ぎ、確実にチーム力は下降線を迎っていますが、体力を経験で補うメンバーが揃っています。

来年も素晴らしい成績が残せるよう、ベテランと少数の若手メンバーが協力し、全員野球・全力プレーを心掛けたいと思います。

来年も良い結果を残せるよう体の鍛錬に励みたいと思います。ありがとうございました。

Bクラス バッドボーイズ 宮沢 昭慶

優勝は、少しではなく、かなりビックリしています。

ある試合では、ノーヒットノーランをしたとの報告があり、またビックリです。

我がチームがと？ 最初聞いた時は、しましたではなく、されちゃいましたと思いました。

選手に恵まれて、とても感謝しています。監督は何もしていません。選手様様です。

年齢も上がり40歳を超える選手が主力となっているなかで、若手もがんばっています。

これからもけがなどしないよう頑張っていきたいです。

選手のみならず、ありがとうございました。

来年も良い結果を残せるよう体の鍛錬に励みたいと思います。

☆第54回リーグ戦 【表彰選手】

	Aクラス	Bクラス
最高殊勲選手賞	小田島一樹 (デ)	新川 幸仁 (パッ)
最優秀監督賞	片桐 裕 (デ)	宮沢 昭慶 (パッ)
最優秀防御率賞	小原 章裕 (ダン)	海保 慎也 (パッ)
最多勝利投手賞	宮野 哲也 (デ)	岡田 誠 (ラー)
打撃賞	高石 祐介 (フ)	山田 雄大 (ギ1)
最多打点賞	小田島一樹 (デ)	望月 勝弘 (ナチ)
最多本塁打賞	小田島一樹 (デ)	望月 勝弘 (ナチ)
最多盗塁賞	小田島一樹 (デ)	堀田 彰 (あ)
優秀投手賞	酒井 隼人 (フ)	山田 雄大 (ギ1)
優秀選手賞	鈴木 稔 (ポバ)	栗林 洋二 (パッ)
	鈴木 功 (デ)	服部 純平 (モ)
特別賞	海保 慎也 (パッ)	9/18ノーヒットノーラン

◇Aクラス最高殊勲選手賞 デンジャーズ 小田島 一樹

この度は最高殊勲選手に選出いただき、誠に有難う御座います。
賞を戴けたことはもちろん光栄ですが、一昨年で続いていた連覇が昨年で途絶え、本年はなんとしても優勝したいという気持ちが強かったので、優勝できたこと、そしてそれに貢献出来たことを嬉しく思います。
来年も優勝できるよう、選手を補強し、チーム一丸となって戦います。

◇Bクラス最高殊勲選手賞 バッドボーイズ 新川 幸仁

今回このような賞をいただくことができ、大変うれしく思います。チームに加入して3年目ですが1年目のころは成績を見ると四死球が絡んだ失点が多く自分のせいで負けていることがありました。それでも打撃や守備の面でチームみなさんの助けがありました。この賞はチームでとらせていただいた賞です。来年はAクラスに上がります。チーム一丸となって現状アップできるように頑張りたいと思います。

◇Aクラス最優秀防御率 ダンディーズ 小原 章裕

45歳のおじさんが最優秀防御率のタイトルを手に入れる事が出来ました。
私のピッチングスタイルは「打たして取る！」ではなく「打ち損じを願う！」スタイルです。残念ながら1試合どう頑張っても2個程度しか3振が取れず、後のアウトは鉄壁な守備(広島カープ菊池のような)に助けられている状態です。このような賞を頂く事が出来たのも全てチームのおかげ、チームに感謝です。来年はダンディーズ優勝しませう。(たぶん?)

打撃 試合数(不戦敗を除く) x 2 打席以上

Aクラス	打席	打数	安打	打率
1 フリースタイル	高石 裕介	20	17	9 0.529
2 ポバイズ	鈴木 稔	29	20	10 0.500
3 サニーズ	遊佐 康太	18	12	6 0.500
4 デンジャーズ	小田島一樹	24	17	8 0.471
5 ダンディーズ	老川 優太	16	15	7 0.467
6 デンジャーズ	平本 哲士	16	13	6 0.462
7 デンジャーズ	安藤 浩二	20	16	7 0.438
8 JAPON	長谷川 樹	21	15	6 0.400
8 JAPON	相楽 英俊	20	8	0.400
10 ポローズ	天野 久	24	23	9 0.391
11 フリースタイル	長橋 歩	21	18	7 0.389
12 フリースタイル	林 誠仁	27	21	8 0.381
13 デンジャーズ	渡辺 卓也	18	16	6 0.375
13 ポバイズ	鈴木 洋一	20	16	6 0.375
13 サニーズ	宮本 康	17	16	6 0.375
16 ランバーズ	西本 奨	16	11	4 0.364
17 ランバーズ	森川 康紀	27	26	9 0.346
18 ダンディーズ	村野 信仁	20	18	6 0.333
18 ポバイズ	金森 拓也	19	15	5 0.333
18 ポバイズ	高橋 浩二	18	15	5 0.333
21 ポバイズ	遠藤 建士	28	22	7 0.318
22 ポローズ	三木 貴大	19	16	5 0.313

投手 規定投げ回数=試合数(不戦敗を除く) x 2

Aクラス	試合	勝	負	投げ回数	責	率
1 ダンディーズ	小原 章裕	4	2	23回(0/3)	3	0.91
2 YOUNG	福満 諭	5	1	3 28回(0/3)	4	1
3 フリースタイル	酒井 隼人	4	3	0 28回(0/3)	3	1.05
4 フリースタイル	林 誠仁	6	0	1 18回(0/3)	4	1.56
5 デンジャーズ	柏原 信彦	5	2	0 16回(0/3)	4	1.75
6 ランバーズ	森川 康紀	8	2	2 42回(0/3)	11	1.83
7 ポローズ	玉元 寛太	6	1	4 33回(0/3)	9	1.91
8 デンジャーズ	宮野 哲也	5	5	0 17回(2/3)	5	1.98
9 ポバイズ	高橋 浩二	4	1	2 23回(0/3)	7	2.13
10 JAPON	沖田 智哉	7	1	2 36回(0/3)	21	4.08
11 サニーズ	中村 安徳	6	1	4 27回(2/3)	18	4.55

Bクラス	試合	勝	負	投げ回数	責	率
1 バッドボーイ	海保 慎也	3	3	0 21回(0/3)	1	0.33
2 キャザーズI	山田 雄大	6	5	1 28回(0/3)	3	0.75
3 NATURAL	平原 稔	5	3	1 29回(0/3)	9	2.17
4 モーホーズ	塚塚 博昭	5	2	2 25回(1/3)	9	2.49
5 バッドボーイ	新川 幸仁	5	5	0 26回(0/3)	10	2.69
6 APACHE	柳沼 宏彰	5	3	2 27回(0/3)	11	2.85
7 ラードネス	岡田 誠	8	5	2 42回(0/3)	22	3.67
8 あよろし	堀田 彰	8	1	5 40回(1/3)	23	3.99
9 キャザーズII	岡崎 高志	7	3	2 31回(0/3)	20	4.52
10 SOB	中村 安徳	8	2	4 35回(2/3)	29	5.69
11 レイダース	高松 龍一	8	2	5 28回(0/3)	32	8

打点

Aクラス	打点	Bクラス	打点
1 デンジ	小田島一樹	12	12
2 デンジ	安藤 浩二	8	2
2 デンジ	鈴木 功	8	2
4 フリース	長橋 歩	7	4
4 ポバイズ	高松 正志	7	4
4 フリース	根本 裕介	7	4
7 フリース	平本 哲士	6	6
7 デンジ	平本 哲士	6	6
7 ポバイズ	鈴木 稔	6	6
7 フリース	荒川 達哉	6	6
7 ランバー	森川 康紀	6	6

盗塁

Aクラス	数	Bクラス	数
1 デンジ	小田島一樹	11	12
2 フリース	林 誠仁	11	2
3 ポバイズ	鈴木 稔	10	2
4 JAPON	寺尾 雅人	5	4
4 フリース	原敬浩	5	4
6 ダンデ	北島 康聖	4	6
6 YOUNG	村上 龍聖	4	7
6 デンジ	渡辺 卓也	4	7
6 デンジ	安藤 浩二	4	7
6 JAPON	長谷川 樹	4	7

HR

Aクラス	数	Bクラス	数
1 デンジ	鈴木 功	3	2
1 デンジ	小田島一樹	3	2
2 デンジ	久光 直哉	2	

Bクラス	打席	打数	安打	打率
1 キャザーズI	山田 雄大	23	23	13 0.565
2 NATURAL	福本 良克	16	13	7 0.538
3 モーホーズ	服部 純平	20	20	10 0.500
4 APACHE	斎藤 信幸	24	22	10 0.455
5 NATURAL	望月 勝弘	20	18	8 0.444
6 レイダース	守谷 猛	18	12	5 0.417
7 キャザーズI	下村 康平	21	17	7 0.412
8 ラードネス	塩向健太郎	28	20	8 0.400
8 キャザーズII	佐藤 仁	21	15	6 0.400
10 APACHE	柳沼 延佳	25	18	7 0.389
10 キャザーズI	新井一宏	24	18	7 0.389
10 バッドボーイズ	北村 亘宏	23	18	7 0.389
10 レイダース	橋本 良延	19	18	7 0.389
14 あよろし	堀田 彰	28	24	9 0.375
14 APACHE	柳沼 宏彰	20	16	6 0.375
14 ラードネス	岡田 誠	26	24	9 0.375
17 キャザーズII	加藤 孝之	21	19	7 0.368
17 APACHE	小山 寛仁	20	19	7 0.368
19 ラードネス	山本秀一郎	25	17	6 0.353
19 SOB	吉野 聖一	24	17	6 0.353
21 キャザーズI	黒澤 潤	20	20	7 0.350
21 モーホーズ	松井 寛文	23	20	7 0.350
23 キャザーズI	開瀬 寛久	18	15	5 0.333
23 キャザーズI	河辺 大輔	17	12	4 0.333

～総括～

Aクラスは、去年無冠のデンジャーズが見事全勝優勝。昨年2冠のフリースタイルは確実にUCL杯を獲得。やはりこの2チームはタイトルがかかる強い。ダンディーズがしぶとく準優勝。Aクラス復帰のサニーズは再度Bクラスへ。防御率1点台が8人もいるのは素晴らしい。引き分けが多かったのも投手の躍ん張りによる接戦の証拠だろう。
Bクラスもバッドボーイズが全勝優勝。タイトルホルダーも多く、クラスが上がっても善戦可能か。

混合戦のUCL杯はキャザーズIが決勝同点優勝でBクラスからの下剋上を決めた。今年は試合中のケガが多く、3連続で救急車を呼ぶ事態があった。来季は入念な準備運動とグラウンド状態の見極めをしっかりと。また、初開催の選抜オールスターゲームは大成目と言えるだろう。
笑顔の中でも選ばれた者たちの真剣勝負に「来年もやりたい」という声を多数聞いた。連盟の特徴がまた一つ増えた。

(総務部)

～連盟便り～

審判部・加藤部長 今年100試合中、選任が関わった試合43(4人制18、2人制13、技術指導12)。来年も集中で効率の良い2人制を推進して行きます。
運営部・平野部長 2リーグ制になって2年目、トーナメントをA・B混合戦としてみました。来年も同様な運営を考えています。
会計部・斎藤部長 ここ数年、より良い連盟を目指して役員一同努力してきました。来年は55周年を迎え、魅力的な連盟を目指し、頑張っていく所存です。

記録部・前川副部長 記録システムを導入し、記録懇親会を行っての2年目のシーズンは、みなさんの協力で1年目よりはスムーズに行えました。来年度はより正確にかつスピーディーに運営していきます。
総務部・本川部長 熊本・大分地震の義援金56,881円を熊本市軟式野球連盟少年部へ送金しお礼状が届いています。HPに掲載しています。ご支援頂いた皆さん、有難うございました。

【第1回 浦和社人リーグ野球連盟 選抜オールスターゲーム】が10月30日(日) <若槻城址公園グラウンド>で開催されました。

チーム	パーフェクトス [TEAM PERFECTS]	スベリアルズ [TEAM SPECIALS]
フリースタイル	森田(24)・全	林(22)・全
ランバーズ	森川(26)・投	西本(24)・捕
YOUNG	福満(22)・投	村上(21)・全
JAPON	沖田(19)・全	長谷川(26)・全
キャザーズI	山田(26)・投	下村(26)・外
ポローズ	天野(25)・内	玉元(25)・投
NATURAL	福本(27)・投	福本(27)・投
レイダース	高松(45)・投	守谷(39)・捕
バッドボーイズ	新川(20)・全	栗林(46)・全
APACHE	柳沼(44)・全	柳沼(49)・全

結果は、6対3でチームパーフェクトスの勝利！
最高殊勲選手賞にはフリースタイル林選手、敢闘賞にあよろし桜井選手が選ばれました。

